

あ と が き

副校長 金島 一顯

今回の学習指導要領の改訂において「学習評価の充実」が示され、児童生徒が「学習したことの意義や価値を実感できるようにすること」が明記されました。学習評価の充実に向けては、従来の「できる・できない」といった一面的な評価だけでなく、学習の過程を重視することを大切にし、児童生徒の主体的な学びや次の学びに向かう意欲を高めていくための多面的な評価が求められています。

本紀要は、「知的障害教育における『指導と評価の一体化』に基づいた個が生きる授業づくりー学習評価に焦点を当ててー」を主題としています。子どもたちが学びを積み重ねた単元に焦点を当て、児童生徒一人一人の学習状況の評価を行い、その学習状況の評価と指導の評価を次の単元の授業づくりに活用するという「指導と評価の一体化」に基づいた授業づくりの過程と、その過程における五つの重要な視点を、教科別の指導(国語科)と各教科等を合わせた指導(生活単元学習, 作業学習)の実践を通して示しています。過程図に沿った授業づくりを進めていく際には、各学部で計画シートと評価シートから構成されている授業シートを作成しました。年間に8回程度実施される研究全体会の中では、各学部の進捗状況を共有し合う小グループの協議の時間が設定されていました。自分の学部の取組を言語化したり、他学部の成果と比較して対話したりすることにより、一人一人が自分自身の授業づくりと学習評価を整理することができ、専門性の向上に繋がったと考えております。

また、本年度は、県内の全ての県立特別支援学校が授業づくりと学習評価をテーマとして研究に取り組むこととなりました。そこで、本校が毎年行っている授業づくり研修会で本年度の第1回目は、「授業づくりと学習評価に取り組もう」をテーマとしました。本校が取り組んでいる研究の進め方や研究の成果などについて情報提供し、各校のミドルリーダーを中心に、学校全体の研究ビジョンの共有の仕方、研究計画・推進の仕方、持続可能な取組にするための提案と共有の仕方、学校全体で取り組む実践研究の取組などについて、各学校の意向を共有しながら意見交換を行うことができました。

「附属学校から地域の学校へ情報提供する関係」から、「各学校の目的達成のみならず、附属学校と地域の学校が同じ目的に向かって対話し、共通の新しい価値を創造していくことのできる関係」へのきっかけとなる研究になったと考えております。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたり、多くの方からご指導をいただきましたこと深く感謝申し上げます。本年度で一区切りになりますが、本研究から得られたものを再度検証し、児童生徒の確かな学びに生かせるよう取り組んでいきたいと考えております。皆様には、ご高覧の上、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。